

(2) 子育てネットワークづくりについて

妊娠期から子育て期にわたり、切れ目なく支援が必要な人に包括的な支援を提供していく必要がある。

そのためには母子保健、子育て支援、児童福祉、学校教育との連携が重要となる。

ア 子育て支援連絡会

地域の子育て支援機関が連携し、横のつながりを作ることにより地域の子育て環境を整えるとともに、子育て世代の方の身近な相談窓口として相談対応スキルの向上を目指し、開催している。

令和2年度はコロナ禍で全体会を中止することになった。緊急事態宣言解除後、感染予防に配慮し、子育て支援連絡会、研修会を下記のとおり開催した。「親支援を考える」をテーマに学校に繋ぐ取り組みやピアの育成について討議した。最終回は学校教育課主幹より、よりよい幼保小連携について話を聞き、地域の子どものためにもどのような連携ができるかを考えた。今後も子ども達一人ひとりについて情報共有し継続して支援していくため、学校と地域の子育て支援機関が連携を図っていく。

主な参加機関：児童館・子育て支援センター・保育園・こども園・幼稚園・ファミリーサポートセンター等

	実施回数	内 容	参加者延人数
全体会	—	令和元年度事業実績と令和2年度事業計画について ・新型コロナウイルス感染拡大を予防するため中止（書面開催）	—
部会	4回	「感染症拡大の予防に向けた取り組みについて」情報提供4施設 「親支援を考える～コミュニケーションスキルを考える～」Part I・II ・事例発表及びグループワーク、情報交換 「親支援を考える～小学校との連携について～」	86名

イ 子育て支援研修会

月 日	内 容	参加者
7月20日	講話「子どものコミュニケーションスキルを育てる保育者の支援」 講師 中部大学現代教育学部幼児教育学科 教授 大河内 修 先生	児童館、子育て支援センター、保育園、こども園、幼稚園、ファミリーサポートセンター、子育てお助け隊等 26名（各施設1名まで）

* 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、参加人数制限

ウ 母子保健、児童福祉との連携

事業名	実施回数	構成員	内 容
母子ケース検討会	12回	地区担当保健師、母子保健担当者、家庭相談員、母子コーディネーター	母子健康手帳交付時の妊婦面接と「こんにちは赤ちゃん訪問」から、支援が必要なケースの支援プランを検討
子育て支援課内ケース連絡会	12回	家庭相談員、母子・父子自立支援員、行政担当者、母子コーディネーター	切れ目ない支援につなげるため、課内で地域の課題及び相談事例の情報を共有し、子育て世代の相談体制について検討
母子コーディネーター連絡会	15回	母子コーディネーター	地域の課題を共有し、母子コーディネーターの活動について検討

エ 学校教育との連携

学校教育課との打ち合わせ会議	2回実施(必要に応じて随時連絡調整を実施)
事例検討会	小学校 1校 1事例
子育て支援連絡会	1回 学校教育課主幹 稲垣潤一氏講話 「小学校との連携について」 切れ目のない支援のために ～よりよい幼保小連携のあり方～

オ 地域との連携

主任児童委員等情報交換会を令和2年2月に開催し、地域の子育て情報等意見交換を実施した。令和2年度から定例化し、下記のとおり開催した。情報交換中、学童期の子どもたちの状況等地域の情報を知ることができた。

令和3年度から年4回開催する計画である。

主任児童委員等情報交換会	3回実施 「児童虐待について」「ひきこもり・不登校について」「子育て支援サービスについて」情報交換等
--------------	---